

夏休みの活動報告 ～高校1年生～

◎ IVY 研修参加

報告者：A.M.さん (E)

Y.E.さん (A)・T.N.さん (C)・Y.K.さん (C)
A.M.さん (E)・S.E.さん (F)・S.M.さん (F)・T.M.さん (F)

私は一般生で、IVY 研修の内容についていけるかどうか、模擬教室や事前準備の時点でかなり不安でした。もともとスピーキングに自信が持てなかったこともあり、私がこのプログラムに参加した理由のひとつは、英会話能力の向上でした。

事前準備にはビデオを見て質問に答えるものがあったのですが、速くて全然聞き取れず、研修が楽しみな反面で下手したら何も話せずに終わってしまうのではないかと本当に心配になりました。

Yale の学寮に着いてスタッフから聞いた簡単なルール説明は理解できたのですが、その夜のアプデルさんのスピーチは、疲れて眠かったこともありますがこれまた聞き取れず、ただリーダーのあるべき姿について熱心に伝えてくれている、くらいしか分かりませんでした。パワーポイントに映る文字と、時折聞こえる既習の単語をもとに大意を掴むまではできたのですが、帰国生のように質問したり、ジョークに笑ったりすることはできず、他の一般生と悔し涙を噛みしめて、1日目を終えました。

Yale に滞在中は、午前中にロシア人、中国人、香港の子と一緒に ESL の授業を受けました。その最初に、「相手の言うことが分からないときは、何度でも聞き返したり、言い換えてもらったり、書いてもらったりしていいんだよ」と先生に言われて、私は少し安心しました。私がペアで活動した子はナタリアというロシア人の女の子でしたが、お互いにお国訛りがあったので、数回聞き返してようやく会話が成立するような感じでした。(もっとも、主に私が聞き返す立場でしたが。)夜のアクティビティで私たちのグループをリードしてくれたアンソニーが日本語も話せることや、添乗員の中川さん・現地法人のまさきさん・引率の中島先生による補講のおかげもあってか、他国の人たちとも次第に話せるようになり、当初の不安は徐々に薄れていきました。ナタリアとも仲良くなれたし、一般仲間の Y.E.さん、Y.K.さんと共通の、中国人の友達もできたのです。案外どうにかなっているかもしれない、と少しの自信もついてくるほどでした。

その結果は、プログラム4日目の活動と、6日目のグループプレゼンテーションに表れました。まず4日目は、箱の中で割れてしまったアイスのコーンをどう利用するか、グループで考えて発表しアイデアを競うものでした。私たち一般グループは、コーンの先っぽで小さなアイスクリームを作り、余りは砕いてトッピングにするという案を出したのですが、帰国含む3チームの中で優勝したのです。みんなで協力して、問題と解決策を繰り返し話し合ったおかげだと思います。

グループプレゼンテーションでは、その前夜に先生方の助けをお借りして、遅くまで内容を練り直しました。当日の準備時間に中川さんのご指導のもと、芝生の上で何度もリハーサルをしたので、本番は何とか成功し、お互いに喜び合いました。なかでもトップバッターがすごく上達していて皆スムーズに話すことができ、本当に達成感が大きかったです。

10日目の個人プレゼンも私としては納得のいく出来で、私の第一の目的、英語能力の向上はおおよそ達成されました。あとは、これから英語の語彙を身につけ、引き出す訓練を続けていくつもりです。

もうひとつ、私がこの研修で得たいと考えていたことは、自分の世界を広げることです。私は国内の大学に進学するつもりなのですが、日本の中だけ見て終わるのもなんかいやだな、と思っていました。他の研修ではなく IVY に参加したのは、大学のツアーが多いと聞いたからでもあります。

研修中に訪れた大学は Yale、Colombia、Harvard、MIT の4校で、特に印象に残ったのは、MIT の研究員である我妻さんのお話です。

我妻さんは脳の記憶について研究されているのですが、神経のつなぎ目などの観点から、私たちが今取り組んでおくべきことについての質問に答えてくださりました。曰く、私たちの年齢は記憶力が衰える前で、かつ思考力もついてくる頃なので、興味のあることもそうでないことも、できる限り触れておくとういそうです。胎児の指はその間の皮が徐々に退化して形成されるように、ニューロンも放っておくと連結が弱まり、逆に繰り返し刺激すると記憶がどんどん強まるそうです。普段学校で聞くと(失礼ながら)流れてしまうようなことですが、対話の中で得た答えは、すんなりと私の中に入ってきました。

また、我妻さんは、アメリカでは何かやりたいと思ったらいくらでもやれるし、仕事も勉強も遊びも全力でできるともおっしゃっていました。これは、Yale で一緒に食事をしたミリナさんのお話にも出てきたことで、私も一度生温いところから出て、大学生の時に短期留学をしてみたいな、と思うようになりました。今は留学条件のいい大学を調べてみえています。

しかし外国での生活は大変なことばかりだと思うので、将来の選択肢を狭めないよう、今与えられるものをできる限り身につけていきたいです。何か行き詰ったり、やる気をなくしたりしたときには、IVY でお世話になった方々と、自分たちがしてきたことを思い出して頑張ります。

最後になりましたが、この研修に携わったすべての方々に、とりわけアンソニーと研修参加者、両親に、深くお礼を申し上げます。

◎ カンボジア孤児院ボランティア

O.K.さん (B)

私は夏休みの期間を使い、カンボジアに海外ボランティアに行ってきました。カンボジアの貧しい農村家庭の女性たちの経済的・社会的な自立を促すために、NPO 法人である「かものはしプロジェクト」が運営しているコミュニティーファクトリーを見学し、そこで働く女性の家を訪問したり、日本人がオーナーをしている孤児院に行き子供のお世話をし、一緒に遊んだりしました。また、地雷博物館を見学したりと、さまざまな現地でしかできない貴重な体験ができました。

◎ アメリカ研修参加

報告者：A.S.さん (A)

A.S.さん (A)・E.R.さん (A)・K.R.さん (A)・K.K.さん (A)
A.R.さん (B)・T.Y.さん (B)
I.Y.さん (C)・U.K.さん (C)・W.M.さん (C)
K.M.さん (D)・S.T.さん (D)・S.Y.さん (D)・M.A.さん (D)
A.N.さん (E)・K.K.さん (E)・M.M.さん (E)
O.S.さん (F)・O.S.さん (F)

このアメリカ研修は、語学研修を通して本場の英語を学び、他国の学生やホストファミリーと積極的にコミュニケーションを図り、アクティビティやホームステイを通じて異国の文化を体験すること、を目的にアメリカで3週間、1人(2人も可)一家庭にホームステイをしました。月曜日～木曜日の午前中は EL CAMINO COLLEGE にて3クラスに分かれて ESL 授業に参加し、午後は様々なジャンルの文化に触れることのできるアクティビティプログラムを体験しました。金曜日、土曜日はビーチやディズニールランド、ショッピングモールなどに出かけ終日アメリカ観光を楽しみ、日曜日は各家庭でアメリカの休日をホストファミリーと一緒に過ごしました。

はじめは言語や文化の違いに戸惑うことも多々ありましたが、ホストファミリーや先生など様々な人に助けられながら、現在の英語力でこの3週間で過ごすことが出来たことは私たちアメリカ研修参加者の自信となり、また今後の英語学習のモチベーションにもなりました。思ったことや言いたいことは我慢せず、自分の意思を明確に伝え、実践に移していくことの重要性を学びました。現地の大学でのESL授業や日々のアクティビティ、各家庭でのホストファミリーとの会話によって、アメリカの文化を肌で感じ、普段日本の家庭では行わないような、お手伝いやゲームなどに積極的に参加することで、それぞれが充実した時を過ごしました。

3週間、日本の家族のもとを離れ、異国の地で二度とないような素晴らしい体験をし、ホストファミリーとの絆はもちろん、共に参加し助け合いながら過ごした洗足生同士も今まで以上の関係を築くことができ、このアメリカ研修での生活の中で成長を感じました。これまでにないほど充実した学びの多い夏休みを過ごすことが出来たと思います。

◎ 2014年夏 立川相互病院1日医師体験

報告者:O.N.さん(D)

H.R.さん(A)・O.N.さん(D)

<日程>

- ①職場訪問：栄養科→医療福祉科→ER→診療情報管理課→院内薬局→透析室
- ②「医学ミニ講座」：OPE着体験・糸結び体験
- ③患者様訪問等：レントゲン・検査・リハビリ室で患者様と懇談



「チーム医療」について身近に感じる事ができました。医師という職業だけでなく、その医師を支えている、周囲で働いている方のお話を聞き、最終的には医師がゴーサインを出して機能しているのだと感じることが出来ました。そして、そのような最終的な責任を負う、医師という職業を逞しく感じ、改めて憧れをもちました。

◎ H-LAB 2014

A.C.さん(C)

H-LAB とは…

世界中の高校生から社会人があつまり、多様性あふれる環境の中で主体的な進路選択と将来設計について考えることを目的として設立されたH-LAB。「ボーダーを超えたりべラル・アーツ」をコンセプトに、偏差値にもブランドにもよらない、国境・世代を超えた交流による進路指導の新しい形を提唱するプログラム。

H-LABは、私にとって本当に内容の濃い9日間で、これまでの人生でBEST3にはいる経験でした。自分の夢、将来の職業…今までにないくらい自分とは何かを自己分析して、自分の「夢」を考え直しました。すごく積極的な周りの高校生に刺激され、自分も自然とどんどん積極的になっていくのを感じました。ぜひ、同輩・後輩にも経験してもらいたいです。

◎ 産経志塾

I.M.さん (C)

1日目は、マッカーサー記念堂見学の後、外交評論家・米 MIT シニアフェローの岡本行夫氏の「世界に通用する国際人とは」という講演会を聴きました。今日の日本人の欠落、殻に閉じこもった考えに問題意識を持つようになりました。さらに、キャノングローバル戦略研究所研究主幹の宮家邦彦氏による「尖閣諸島をめぐるシミュレーション」では、米大統領の立場で尖閣問題を考え、自分の無知さを知りました。

2日目は、日本紛争予防センターの瀬谷ルミ子氏の講演「平和構築の現場から」を聴きました。瀬谷氏の、「自分自身が動くしかない、今できることを今やり、他の人より早く選択する」という人生の選択のお話に強く感銘を受けました。



◎ タイ 友情幼稚園・孤児院ボランティア

M.N.さん (C)

夏休みの8日間、タイの孤児院にボランティアで行きました。子供たちと遊んだり、遠足に行ったり、孤児院に飾る旗を作ったりしました。また、孤児院に寄付するための古着を売ったりもしました。本当に色々な事を学べて、たくさんの大学生の人たちと話が出来て、充実した8日間でした。

大学生になったら、また行こうと思っています。